



2014～2015年度 ROTARY CLUB OF TOYOKAWA HOI CLUB WEEKLY

# やらまいか

例会日/毎週火曜日 12:30 例会場/豊川商工会議所

会長/滝下 勲 幹事/伊藤正幸 会報委員会/河本圭史・大場 篤

事務局/豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889

HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

クラブテーマ: 和の心と・地元へ奉仕を

本年度第33回 通算1379回 平成27年3月10日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	2/24 修正出席率
		59名	30名	60%	92.3%

ゲスト: NPO法人ゆずりは学園 学園長 沓名和子さん ビジター: (なし)

## ★会長あいさつ

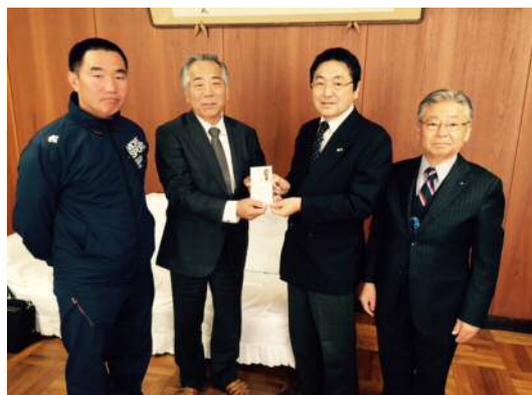
### 滝下 勲会長



こんにちは。皆さん、毎回の例会の食事中に流れているBGMの曲をご存知ですか? 「花はさく」という曲です。NHKの復興ソングです。明日が震災から4年目です。私たちも地震に備えての準備をしておきましょう。

明日から台湾の台中松竹RCに行き参ります。創立18周年記念例会に出席するために、10名で訪問してきます。

先週の例会で豊橋工業高校甲子園出場の応援募金の募金箱を廻らせて頂きました。集まったお金を、先週の木曜日に幹事さんと二人で学校に届けました。吉田校長、竹下教頭、林監督、森同窓会長の皆さんが迎えて頂きました。吉田校長と林監督が4年前に豊橋工業高校に赴任されて、スポーツを通じて、良い学校にしようと頑張っておられたそうです。



## ★幹事報告

### 伊藤正幸幹事

例会臨時変更のお知らせ  
応援募金額の報告と御礼  
ゴルフ同好会コンペのお知らせ

## ★外部講師の卓話

### ゆずりは学園 沓名和子学園長

こんにちは。校内暴力が問題になったのは14年前です。私の勤務していた中学校から始まって、別の中学校へと広まってきました。ある日、凄惨な叫びがして、男性の先生方がグラウンドへ走って向かっていきます。運動場の真ん中で、ひとりの中学3年生の男の子がバットを振り回しています。体育器具庫の窓は全て割れています。その子は「誰も俺の言う事を分かってくれない、分かってくれないから、こうするしかないんだ」と叫んでいました。金髪に染めて入学して来た彼は、文部科学省の通級指導教室の私が担当していた生徒です。私は、毎日、おにぎりを1個持って行きます。それが彼の朝ごはんです。彼が「両親が離婚しなければ、俺ってこんなふうにならなかったよね」と私に言いました。バットを振り回している彼に「悪いことは悪い、バットを私に渡さない」と私が言うと、彼は「他の先生の怒号の中で、沓名先生の声だけは聞こえた」と言いま



した。この子たちの卒業式に私も同時に早期退職をし、学校に来られない生徒たちの居場所作りを決めた日でもありました。

最初は、場所がないので自分の自宅でやりました。自宅が、小学校、中学校、高校の近くにありましたから、学校からチャイムが聞こえるのです。子ども達が落ち着かないと言うので、チャイムの聞こえないところを探そうという事で、現在のところ移動をしました。

フリースクールを始めて6年も経った時、ある方から「全国には100万人以上の青年が苦しんでいる。その青年を全部救って、初めて先生がしてきた意味がある。わずか500人救ったぐらいで何になるのですか」と言われました。その時に、本を出したらどうかの提案で、出版したのが「もうひとつの家族 ドアのない部屋から」です。その本がキッカケで、テレビ取材が来てくれて、全国放送もして頂きました。

子ども達を中学校に戻しても、また戻ってきってしまう。高校に進学させても、また戻ってきってしまう。これではいけないということから、通信制高校を作りました。高校から短大、大学に送ると、また戻ってきってしまう。それで通信制の大学を作りました。交通の便が良いという事で、2013年9月に豊川稲荷校を開校しました。

発達障害は目に見えません。これは病気ではありません。色んなものに感覚過敏なのです。発達障害は音に敏感です。大きな音が嫌い、怒鳴り声も嫌い、ナイショ話などの小さな音も嫌い、音に敏感な子どもがいるのです。人の目が怖いのです。見つめられると下を向いてしまいます。視線に恐怖があるのです。食べ物を口で噛んだ時の音が気になる。噛んだ感覚が気になる。だから、食べられないものが出てくる。そして給食が食べられなくなるのです。そして触覚過敏があるのです。人と人との距離を取りたいのです。近づかれるのが嫌なのです。苦手なのです。発達障害は、コミュニケーションも苦手なのです。「どう？」と聞かれると、どのように答えて良いのか分からないのです。

一人の青年がいました。一流の大学を出て就職もしました。でも2~3ヶ月経ち、自分に責任を持たされると自信がなく、休職して仕事が出来ない自分を自分で責め、時には自分勝手に判断し、それが誤解もあり、自分からドアに鍵をかけて、時には生きていくだけで良いと受けとめたりした一人の青年がゆずりは学園の宿泊施設を6ヶ月後に出て行きました。その青年が

手紙を書いてくれました。「ママさん本当にありがとうございました。僕は、人のしぐさや動作が怖いと思う事がよくあります。でも、それをどう説明したら良いか分からず、悩むことがしばしばあります。でも、「ゆずりは」に来て、今まで僕は見た目や会話や趣味とかで人を判断していたように思います。人の心を理解するのが本当に難しいのです。ここに来て思ったことは、人の心が一番重要で、一番温かいものなんだと感じます。6ヶ月間このゆずりはで過ごしました。ここを出ると皆によく言うて、いつも別れる前になって人に心を開けるような気がします。引っ越し前夜のゆずりはの夜は、とても静かで風もなく暖かい日です。別れることになってから何度か涙が止まらない夜がありました。でも、これは別れでは無くて、始まりなんですよね。今は、このようにしか表現できないけれど、ママさん、6ヶ月間いつもそばにいてくれて、ありがとうございました。」彼が、朝から晩まで、他のスタッフが帰った後も働いていた姿が目に見えます。また部屋にこもり、声も聞こえない日々が思い出されます。生きているのかと、夜、何度も部屋の前に行きました。明かりがついているとホッとした日も多くあります。卒業式、校舎の引っ越しなどで本当に人の手が欲しい時に限って、彼はドアから出て来ませんでした。人が帰って静かな時間になると、カチッと音がして、私たちの前に出てきます。夜遅く彼といる時間が多くなりました。現実から逃げるのではないのです。好きで部屋にこもっているのではないのです。周りの人の理解があれば、発達障害の様な目に見えない苦しみと辛さを持っている人は、十分にその人の個性を伸ばしていけるのだと思います。このような子どもたちを理解していただけることが、本当にうれしいです。本日はありがとうございました。

### ★ニコニコボックス

井指和昭会員	誕生日を祝って頂き
河本圭史会員	〃
加藤哲山会員	〃
井指光基会員	結婚記念日を祝って頂き
藤原規彰会員	〃
柴田浩志会員	〃

会報担当：河本圭史会員・大場 篤会員